

倉田有稀子の告白

大塚まひろ

Confession of
Akiko kurata
Episode 3

3



R18
For ADULTS

成人向け作品につき
18歳未満の閲覧禁止



前回のあらすじ

結婚して六年。

それまで信じていた妻の不倫。

有稀子の告白は

二人目の相手「スズキ」との
出会いへと続く。

自らの軽率さと慢心により
スズキの罠に落ちた有稀子は
数々の屈辱的な行為の中で
自身の性感に目覚めていく。

そして、その体験は
有稀子の心に大きな変化を
もたらそうとしていた――

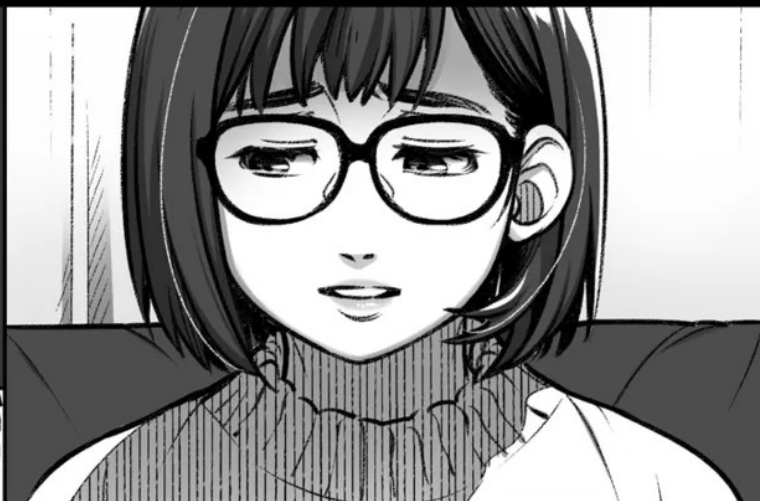


■ 倉田直樹 ■

32歳/大手機械メーカー勤務。

有稀子の夫。

貞淑を信じていた妻の不倫に動揺しつつも
調査資料を前に有稀子に詰め寄る。



■ 倉田有稀子/アキコ ■

30歳/主婦。

直樹とは大学時代からの交際を経て結婚。
自身の不倫が発覚したことで、関係を持った
三人の相手との顛末を告白する。



■ スズキ ■ (第二話)

自称営業マン。

有稀子の二人目の相手。

バーで昏睡した有稀子に対して
強引な手口で行為に及ぶ。

これまでの
登場人物



■ タクミ ■ (第一話)

大学生。

有稀子の最初の相手。

純朴で気さくな好青年。



この男が…何だつて
言っんだ?



この人が…
あなたに全てを
告白する覚悟を
くれた—



三人目の…
最後の相手です



ここからは
あなたも知って
いると思いますが

倉田有稀子の告白

Confession of Akiko Kurata

【第三話/最終話】

三人目の相手と
会ったのは
五日前――



前回から
二カ月後の事
でした

その頃の私は……
前回の事で、セックスに対しては
恐怖心すら感じていた一方で

あの日の快感に、翻弄される
日々を過ごしていました。



それは“女としての承認欲求”
などという言葉が――

ただの綺麗事だと気付くほど
切なく、激しいものでした。

そして…自分^{あても}を欺くための
言い訳すらも失った私は



半ば自暴自棄な気持ちで
相手と会う事にしたのです。



それでは――

あらためて
ご挨拶を：
小松澤です

三人目の相手は、『小松澤』と
名乗る初老の紳士でした。

この人は、セックスレスの既婚者で
奥様からは外遊びを容認されて
いるとのことでした。

こちらは
身分証代わりに
お持ちください

ありがとう
ございます

でも…これは
受け取れません

…ほう
なぜですか？



それは…

私は不倫をして
いるからです

そのせいで…
貴方にご迷惑が
掛かる可能性が
ありますので

しかし
可能性で
あれば

私が危険人物だ
という場合も
あるでしょう？

その時は…
自業自得です
から

ふむ—





このような
オープンな密会を
続けていけば

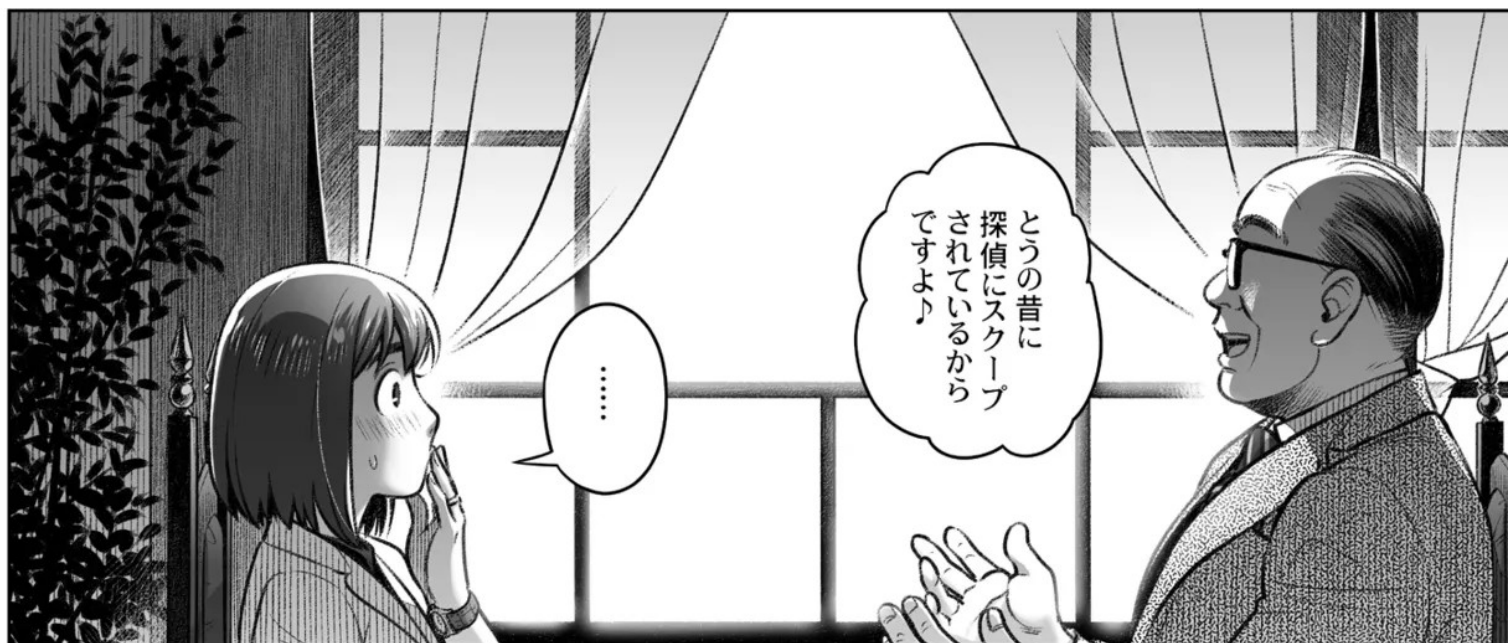
それは

どうして
最近だと…?



貴女は最近…
怖い思いを
なさったのでは
ありませんか?

…



とうの昔に
探偵にスクープ
されているから
ですよ

…



もし
良かったら…

…あの…

はい
是非聞かせて
ください

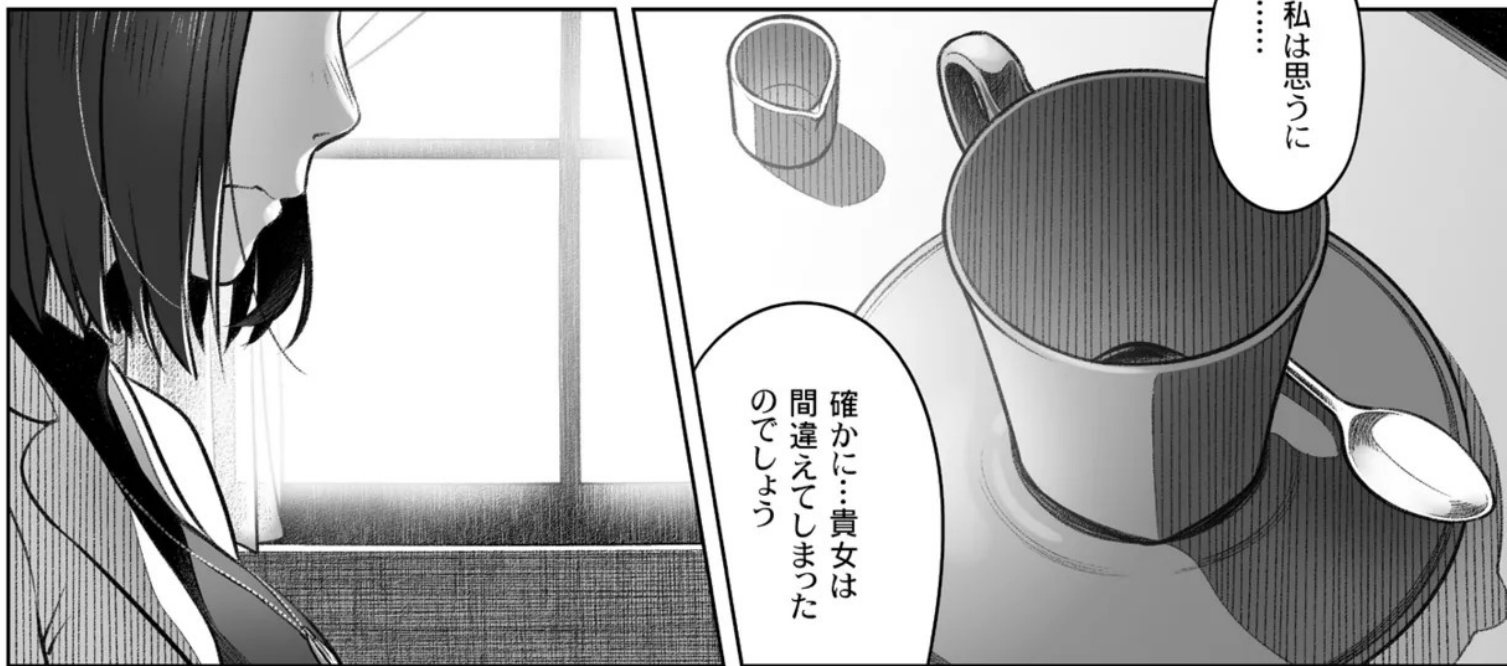
こうして私は――

今まで誰にも話せなかった
二人目の男との出来事を
打ち明けました。

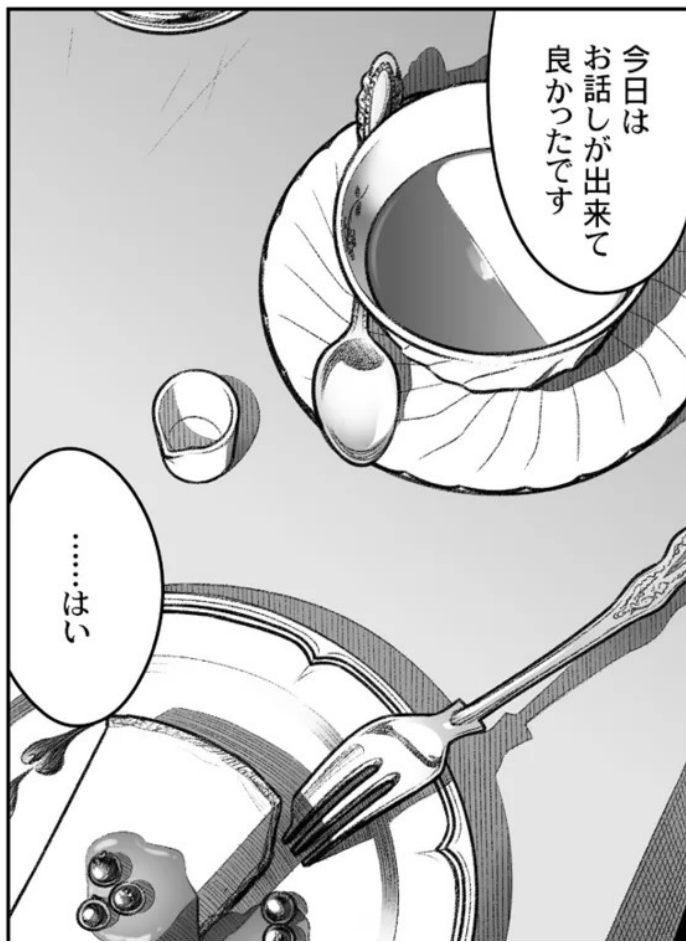
途中で感情が高ぶって、言葉に
詰まった時も…相手はただ頷いて
私の話を聞いてくれました。

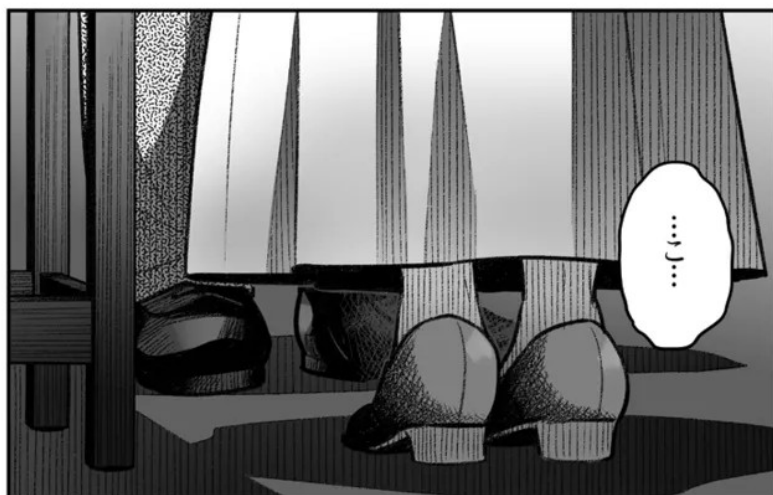
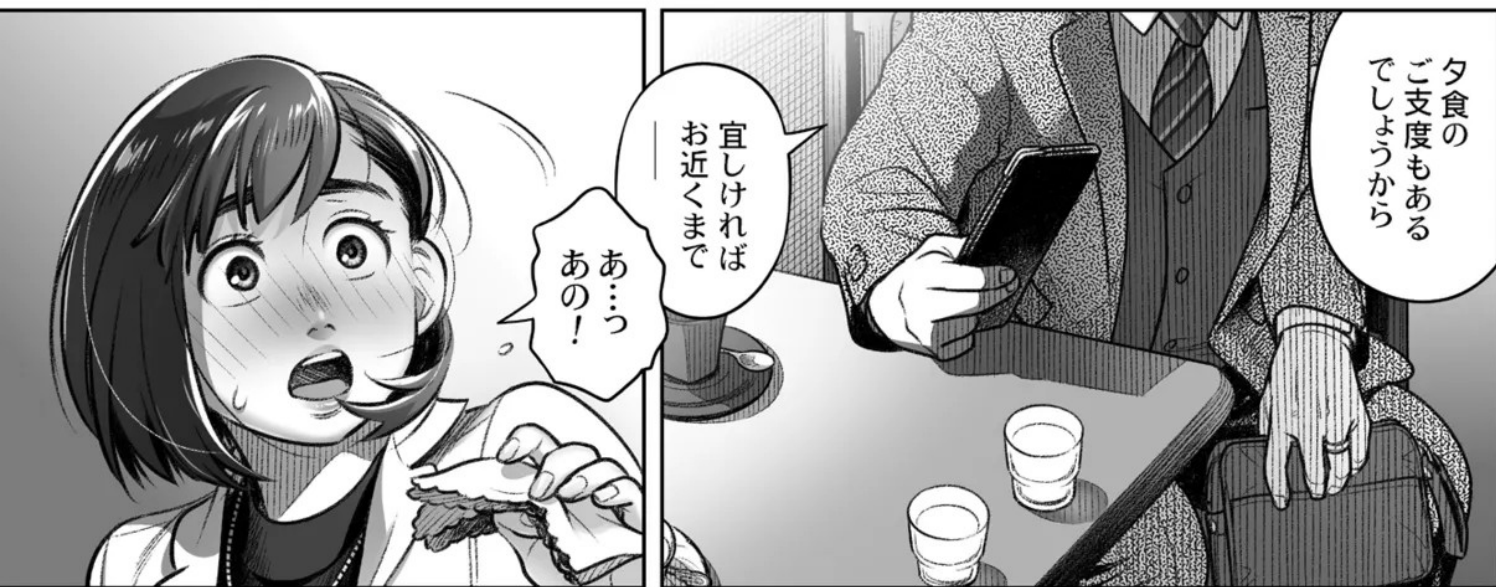
その気遣いに安堵した私は
次に最初の相手のこと――











それは、アプローチにしては
あまりにも稚拙な言い様でしたが

なので…
もし私で
良かったら

……今からでも
抱いていただけ
ませんか？

けれど…相手は笑ったりせず
ただ、子供をあやすように

——はい
もちろん喜んで

へ…っ？

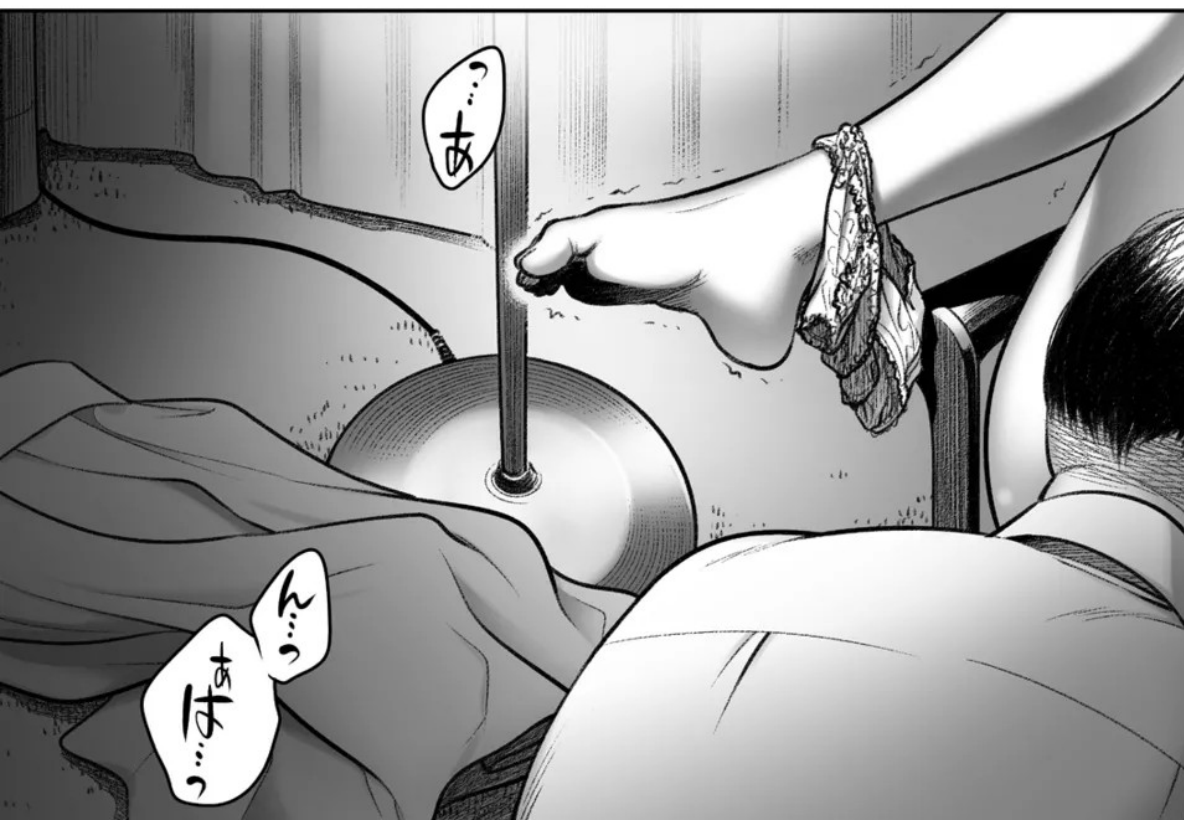
私を受け止めてくれたのです。

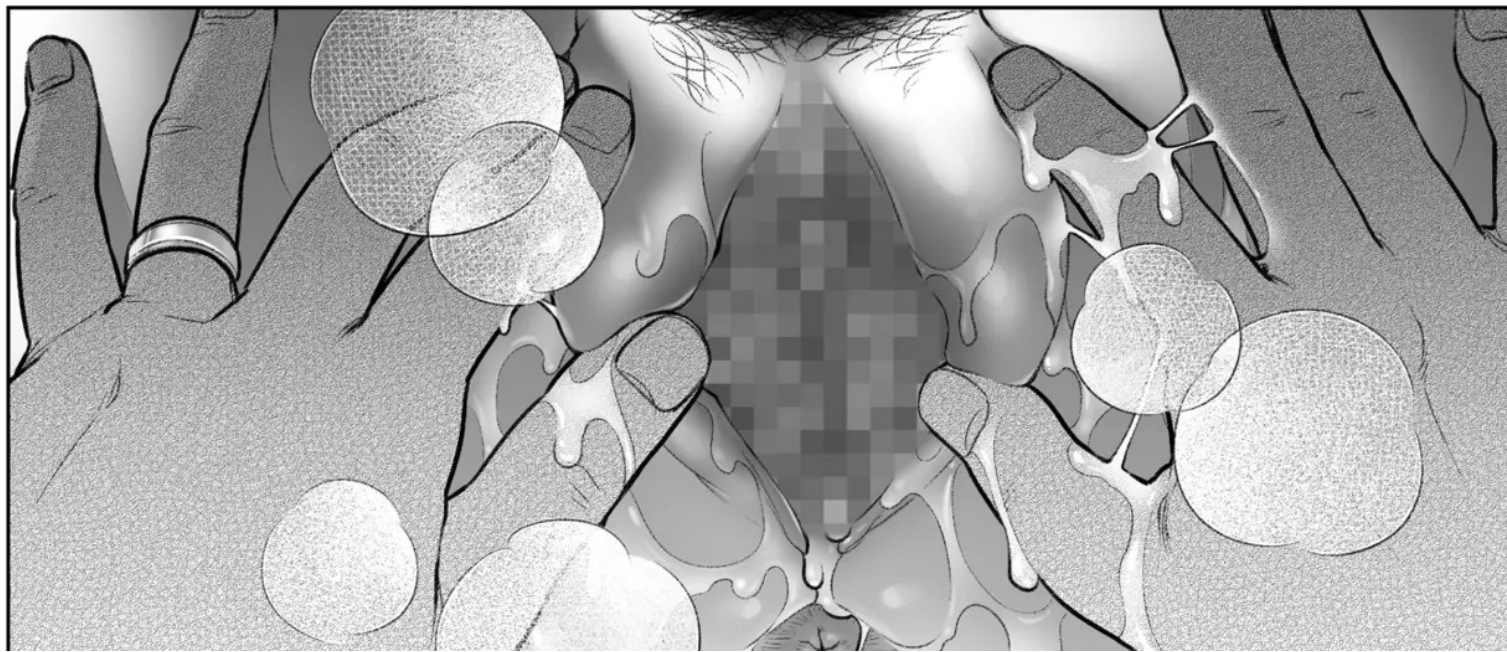
その後――

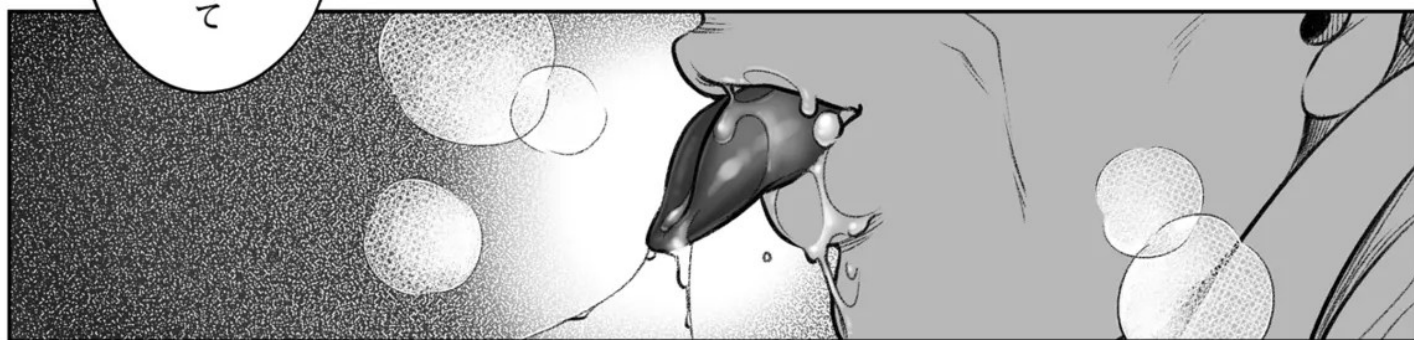
「セックスがしたい」という言葉に
触発された私と相手は、駆け出す
ようにホテルへ向かいました。

部屋に着くと、服を脱ぐこと
すらももどかしく

同じ表情の相手にリードに
委ねて行為を始めました。

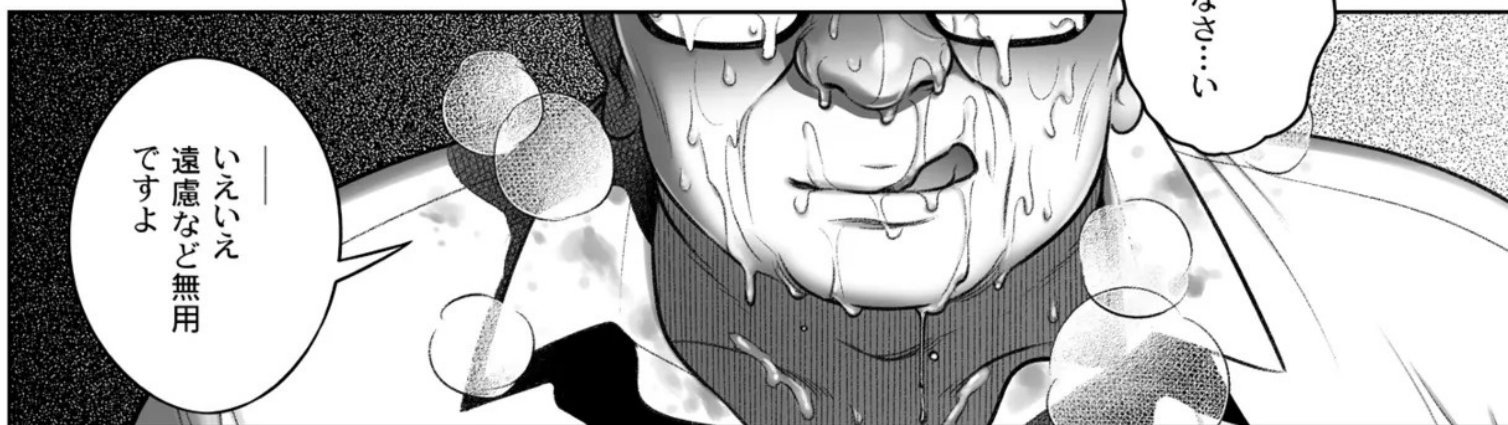


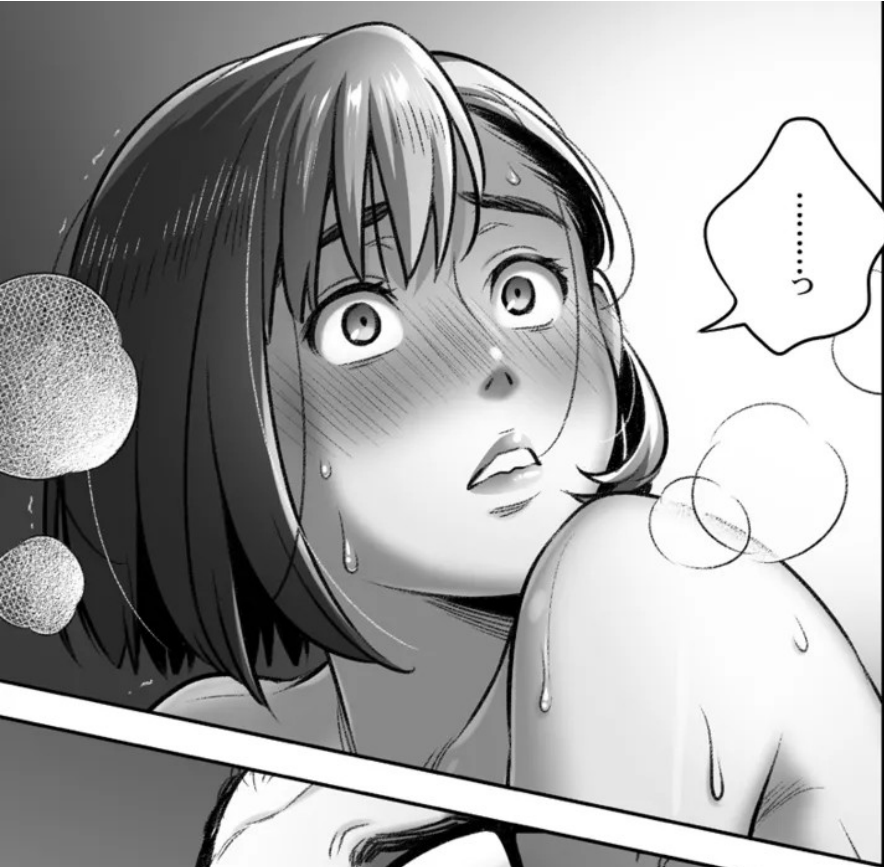








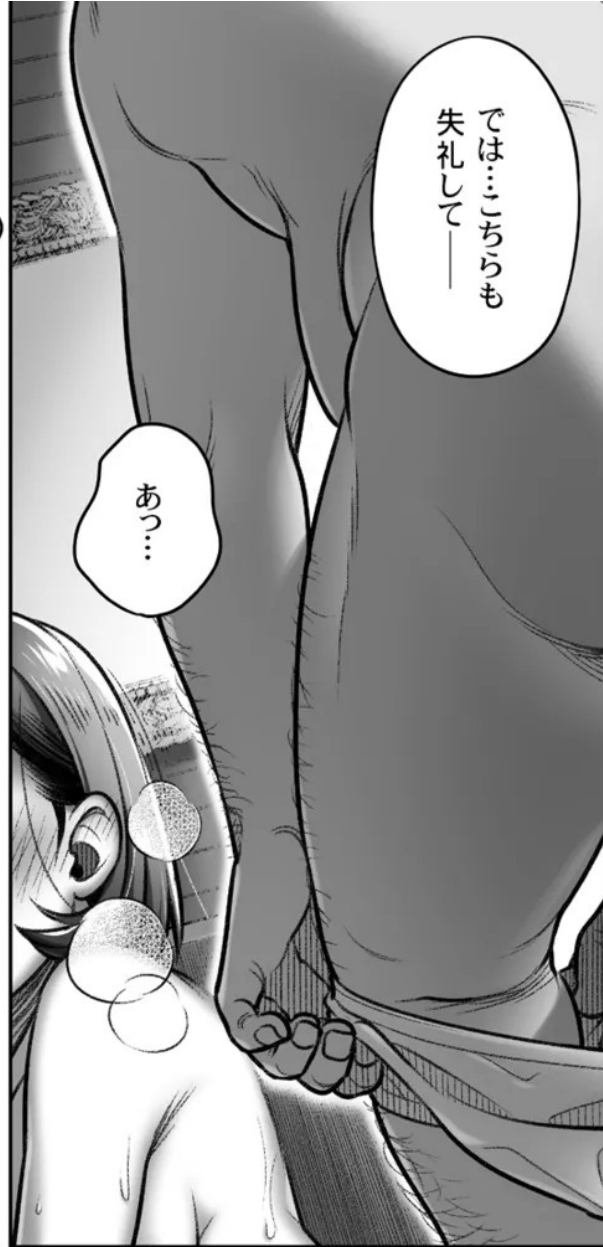




.....っ

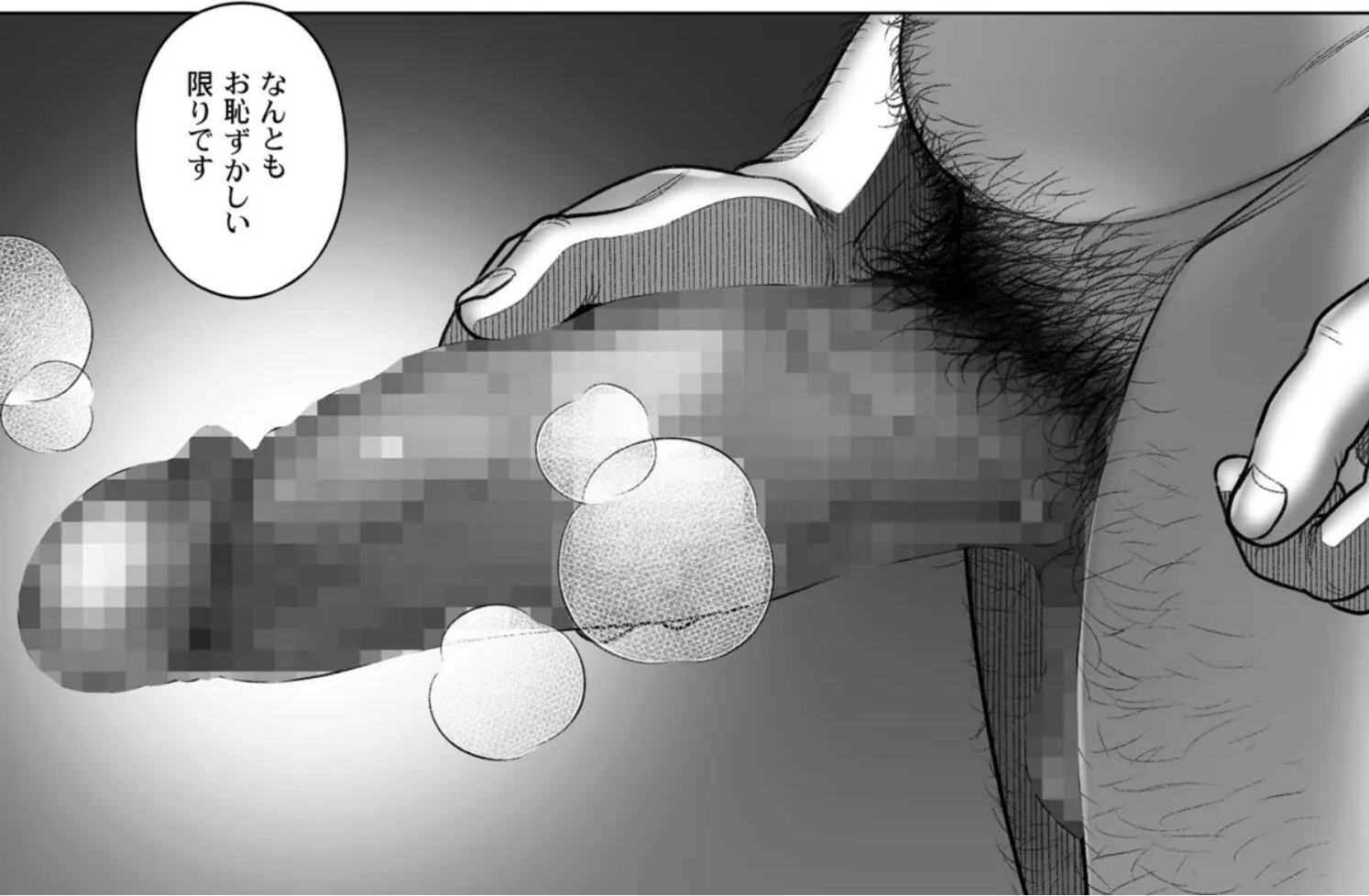


ああ...
すみません



では...こちらも
失礼して—

あっ...



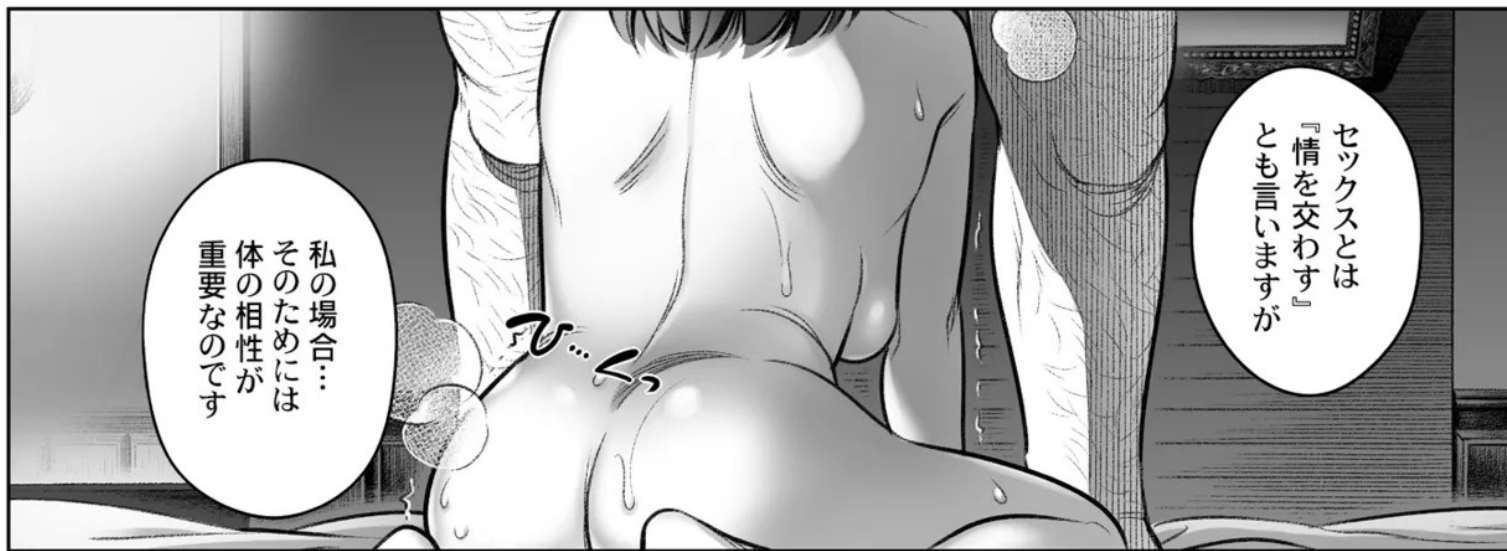
なんとも
お恥ずかしい
限りです



相手のそれは…私の記憶にある印象とはまるで違う——

実はコレが…

妻に外遊びを容認されている理由でしてね



セックスとは『情を交わす』とも言いますが

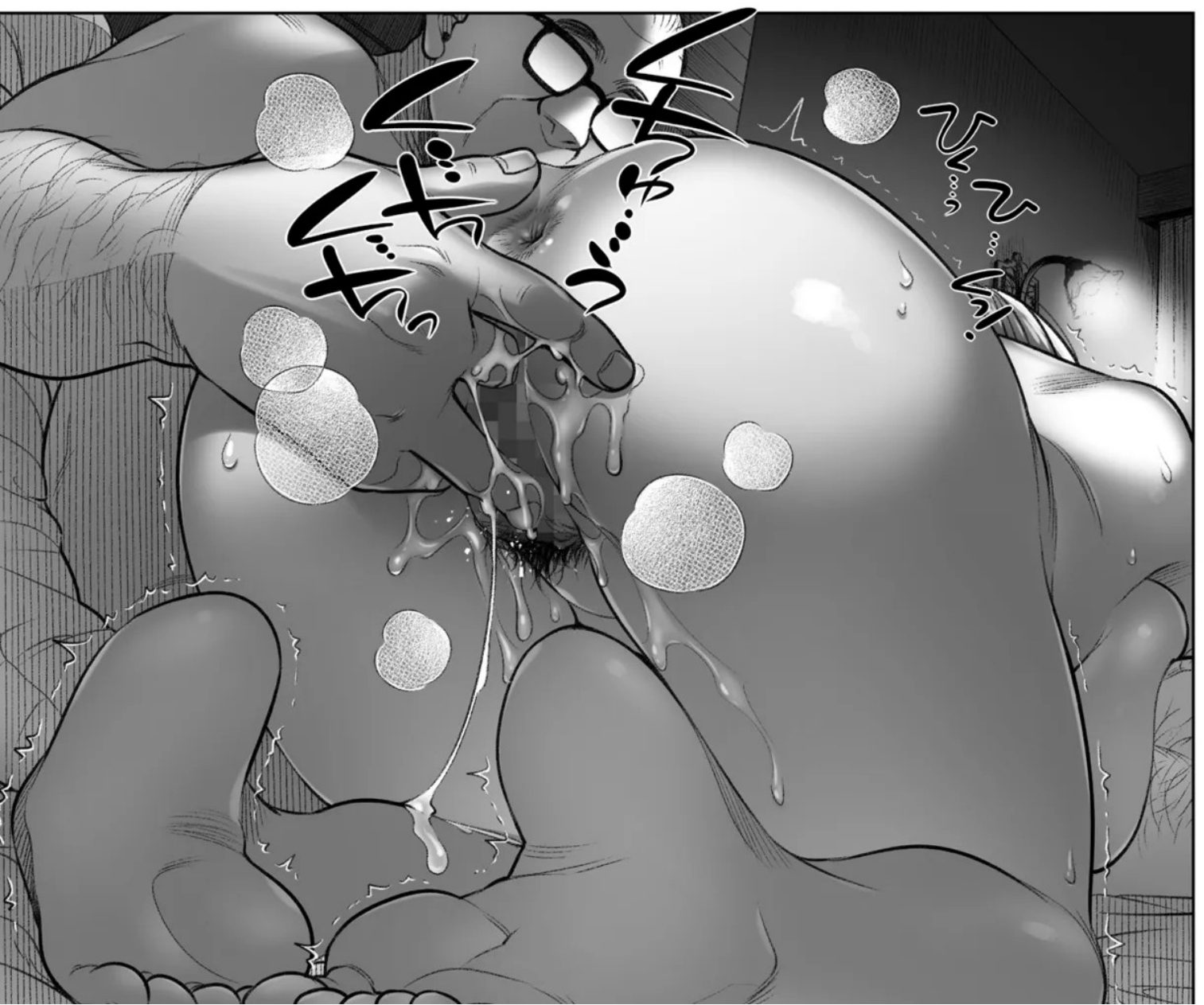
私の場合…
そのためには
体の相性が
重要なのです



さて——
アキコさん

貴女とは…
どうでしょう？

過剰なまでに、雄を主張する存在でした。



ほう

指の一本すら
通れぬ細道かと
思えば...

きゅん...
きゅん...
きゅん...

きゅん...
きゅん...
きゅん...

きゅん...
きゅん...
きゅん...

中は...まるで
沸かした蜜蝋の
ようだ

きゅん...
きゅん...

きゅん...
きゅん...





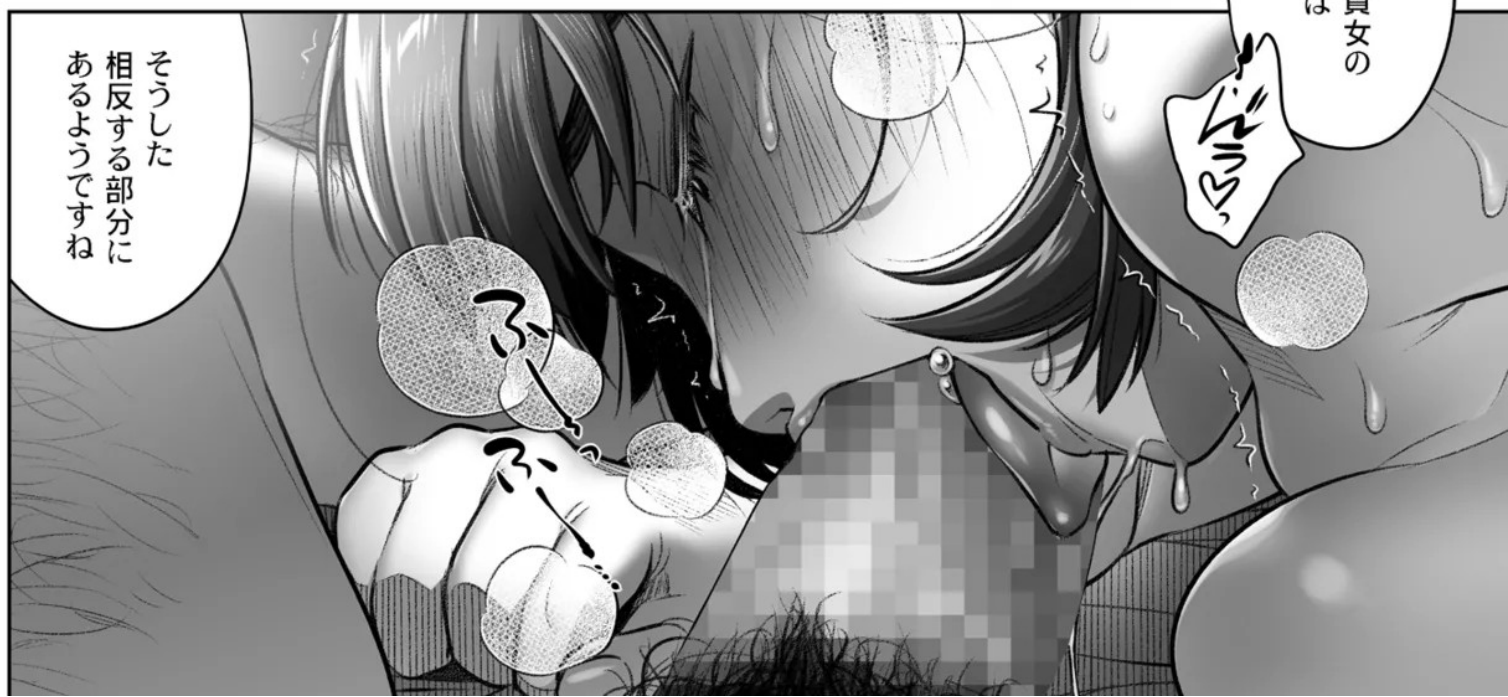
清楚にして
濃艶……



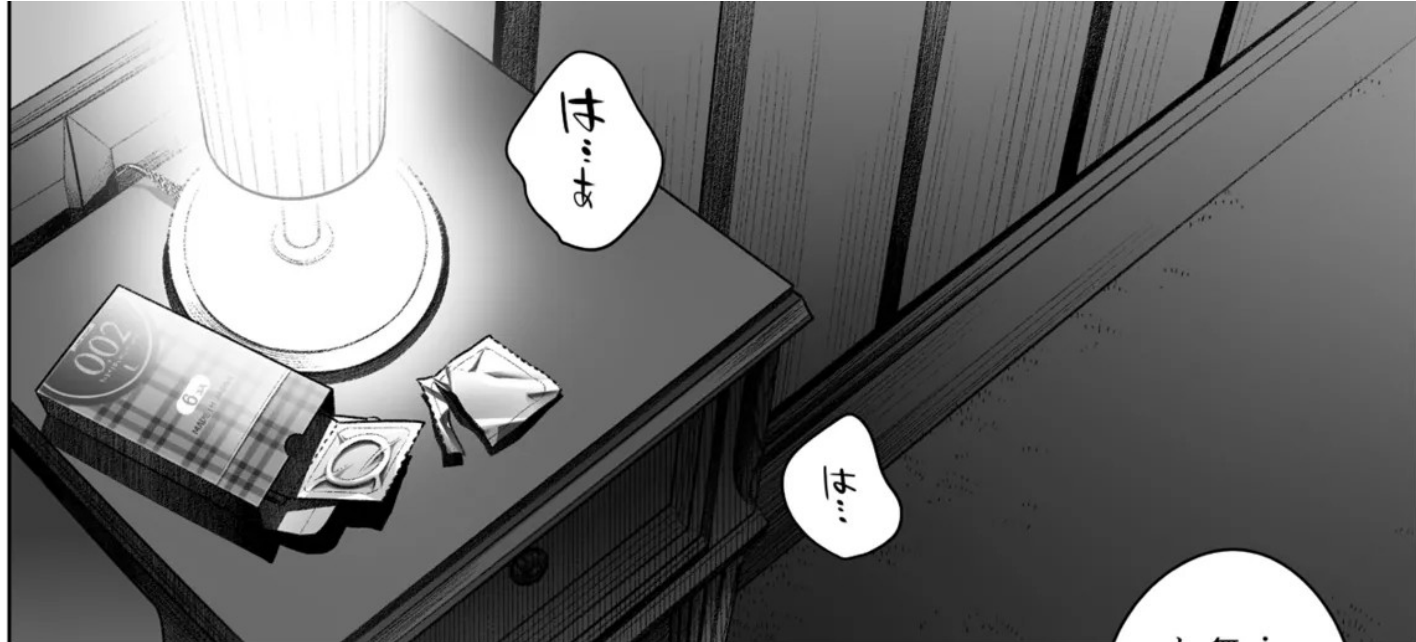
そして
繊細にして
大胆――



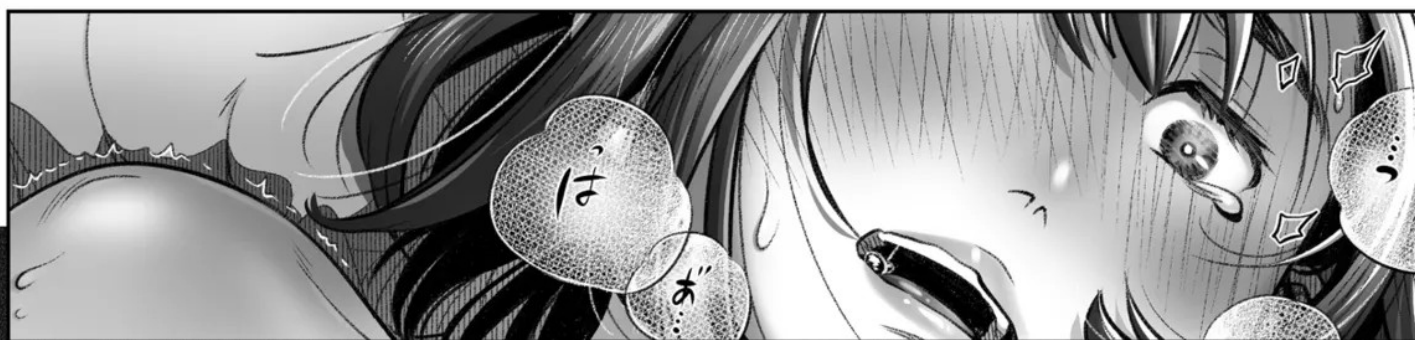
およそ貴女の
魅力とは

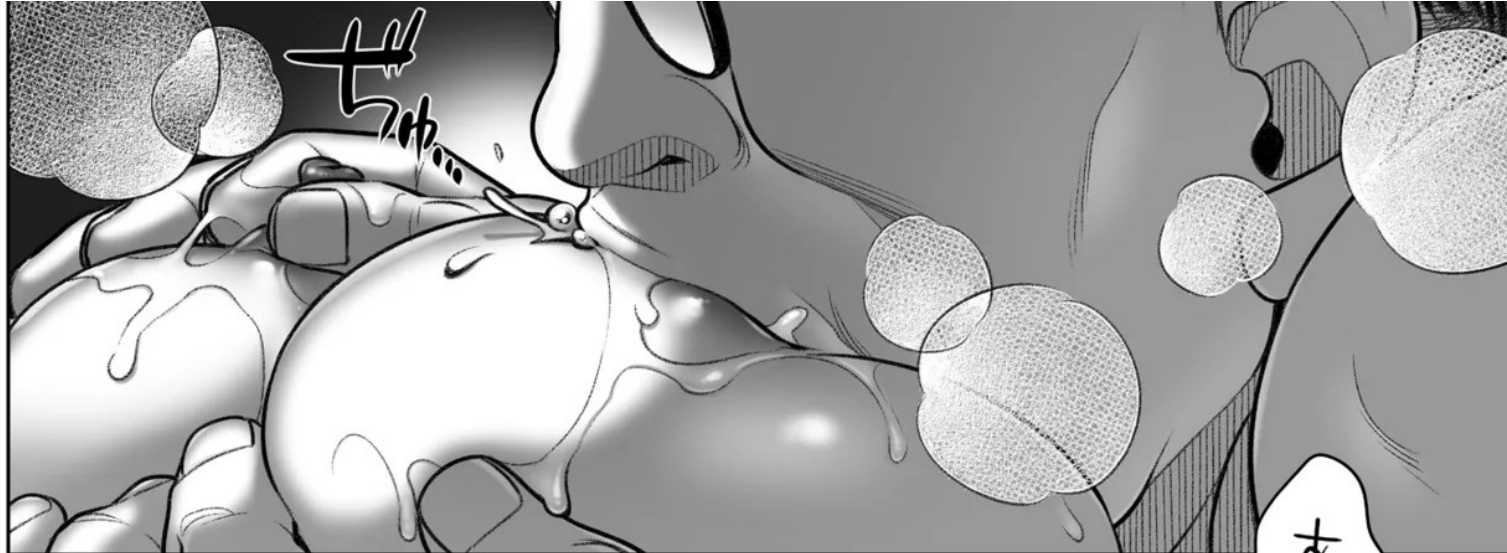


そうした
相反する部分に
あるようですね











ほり…

この様にね—

…あ





♡
♡
♡

ようやく
辿りつきました

もう大丈夫
ですよ

♡
♡
♡

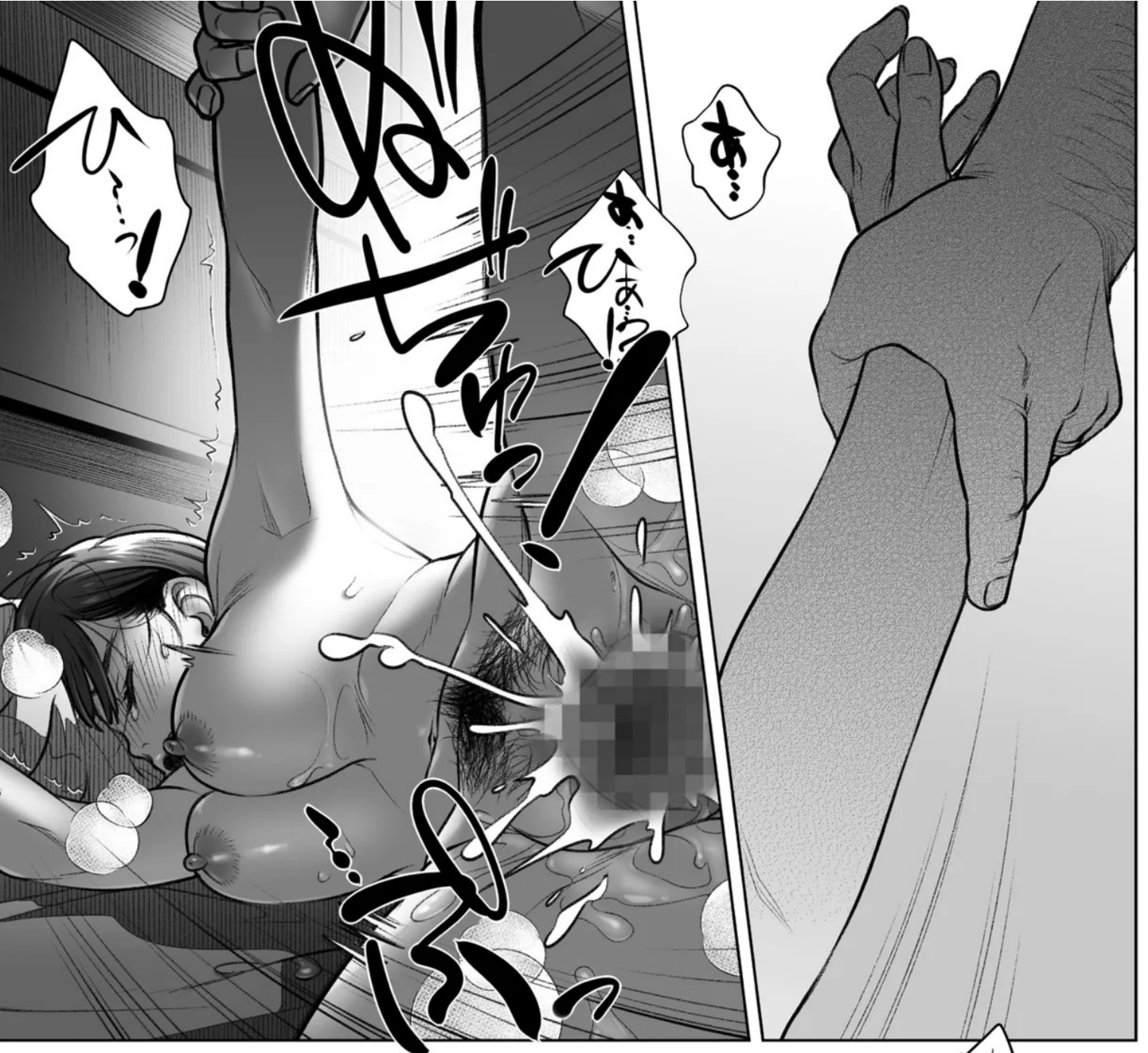
♡
♡
♡

後は…これを
繰り返すだけ
ですから



私の内側を、くまなく押し拡げ
掻き出していきました。









やがて...相手の動きは

私を気遣うものから、射精を意識したものに変化していきました。



ああ…
素晴らしい—

そして—

限界まで張り詰めた内側を
駆け昇る…熱い塊まり。



それが絶頂の合図なのだと
気付いた瞬間、私は……

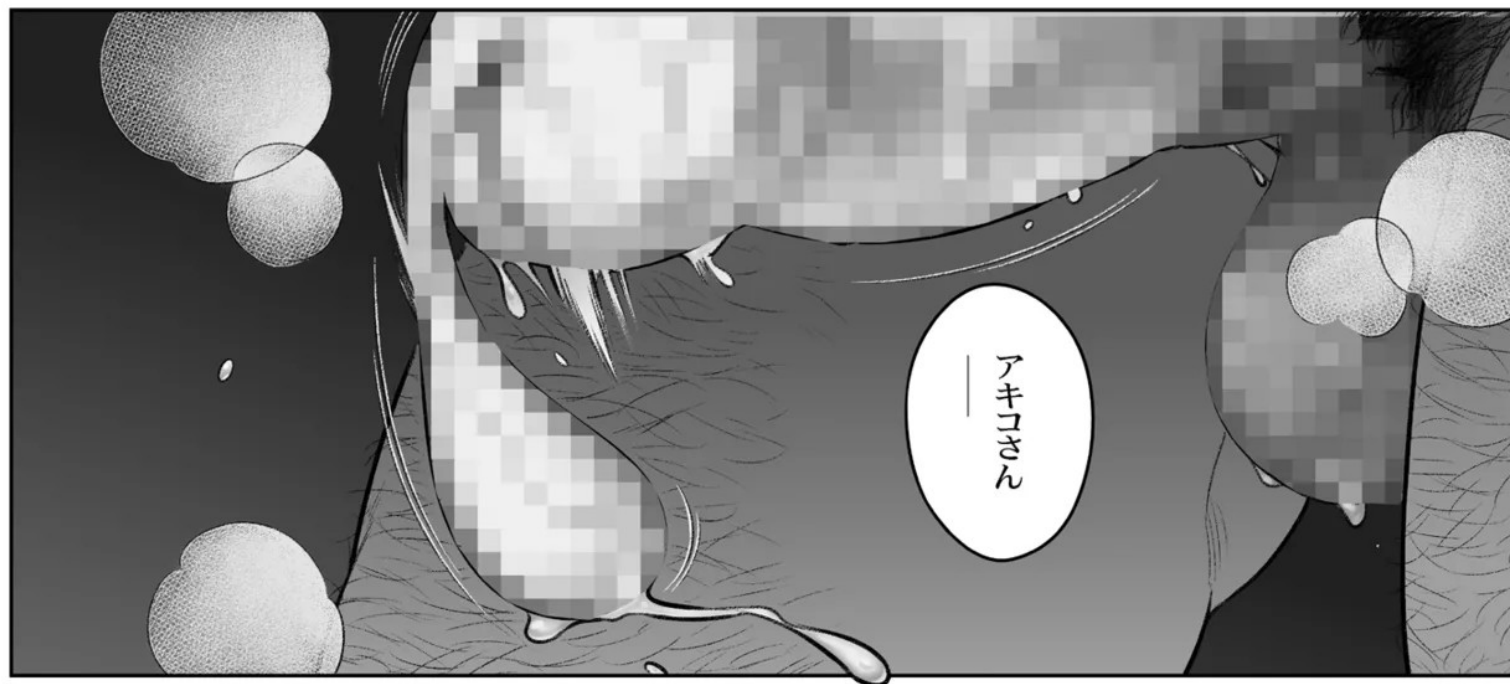


理性が焼き切れるような
興奮に包まれました。



多くの女性に
お相手いただき
ましたが

私は…
これまで



アキコさん



貴女ほどの
女性は…
初めてですよ

あ
は

あ

もしも……

もし仮に、この時点で
行為を終えていれば

あなたの帰宅よりも先に
家に戻れたと思います。

けれど…私は、自分の意思で
相手との行為を続けました。



なぜなら――

それが、私にとっては最悪で
私たちの最後だとしても



あなたに……
気付いて欲しかったのです。

そして全ての告白は…そこから
始めたいと思ったのです。



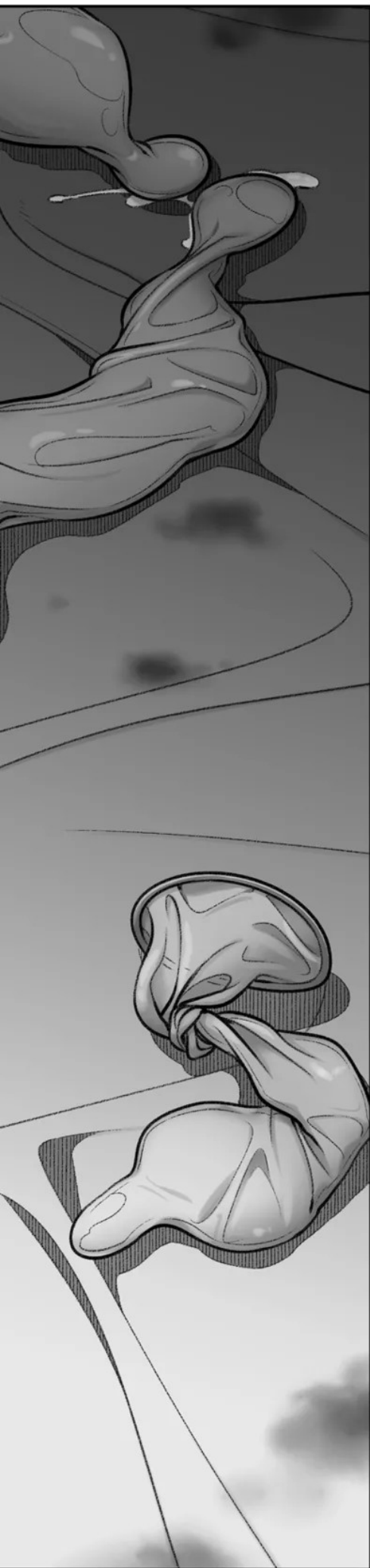




小松澤さん…
これ…すごく
イイ…です

…また
いつちや…う

だ…め…
イキ…ま…す



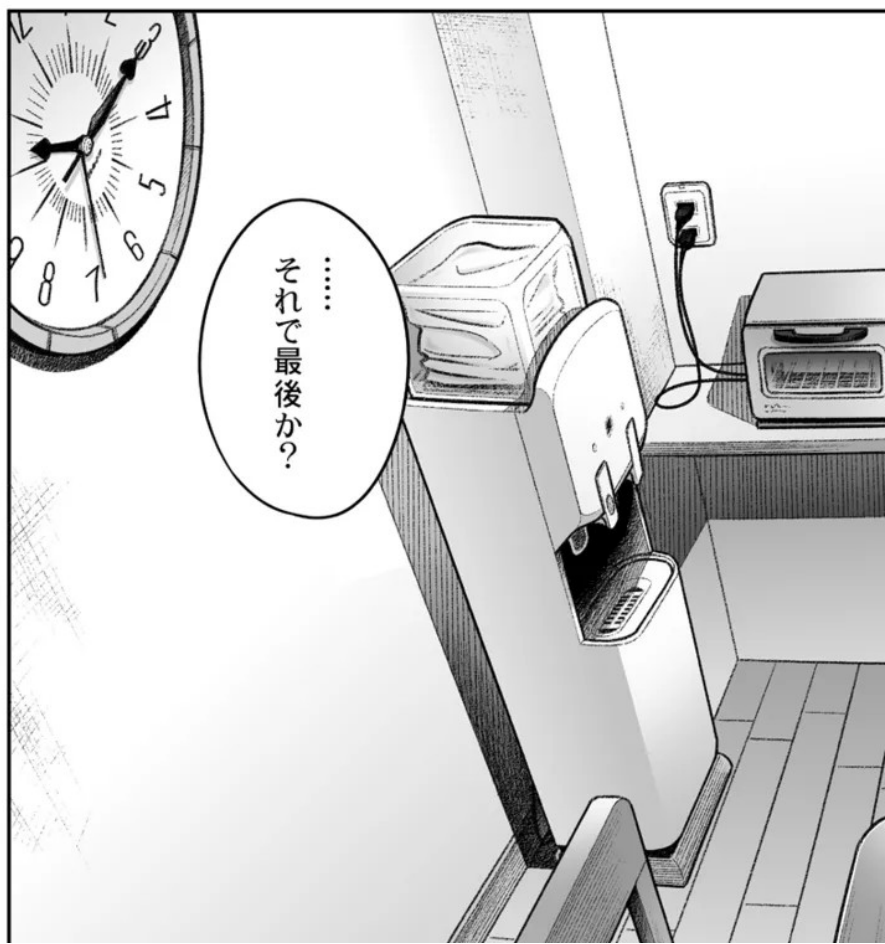


—こうして、私は





自らの欲望のままに……
相手との行為に溺れたのです。







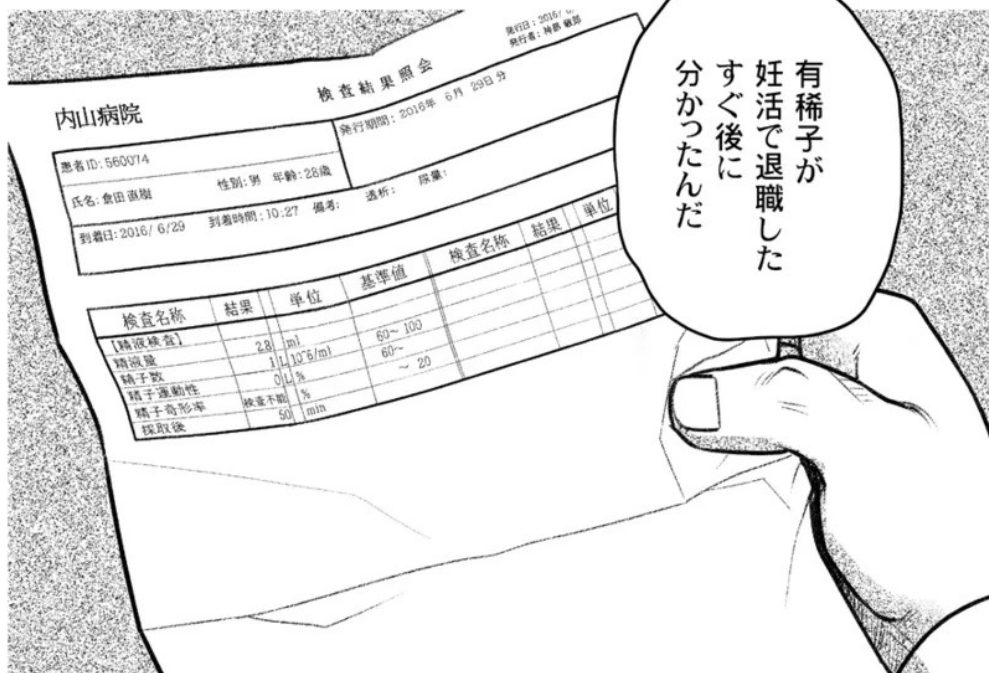
有稀子

お前……









有稀子が
妊活で退職した
すぐ後に
分かったんだ



……
四年前に



セックスレスに
なったのは……



男として
不完全な自分を
知られたくなくて

それで……
君が子供を
諦めるまで

隠そうと
してたんだ

……
すまない



.....
そんなの...
どうでも
良かったのに



もし...話して
くれていたら

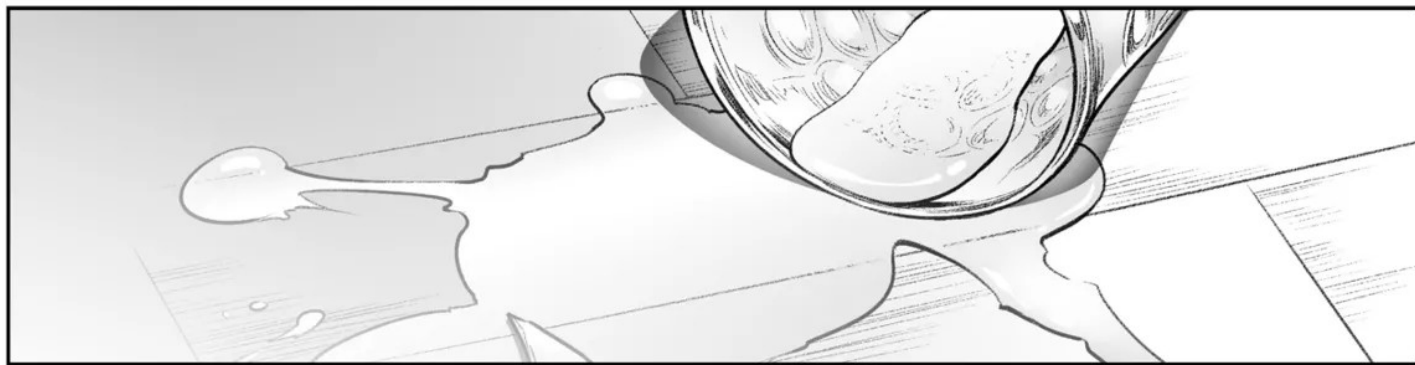
二人で...

乗り越えられた
はずなのに



なのに...私は
自分の事しか
見てなくて...

あなたを
いっぱい傷つけて
.....



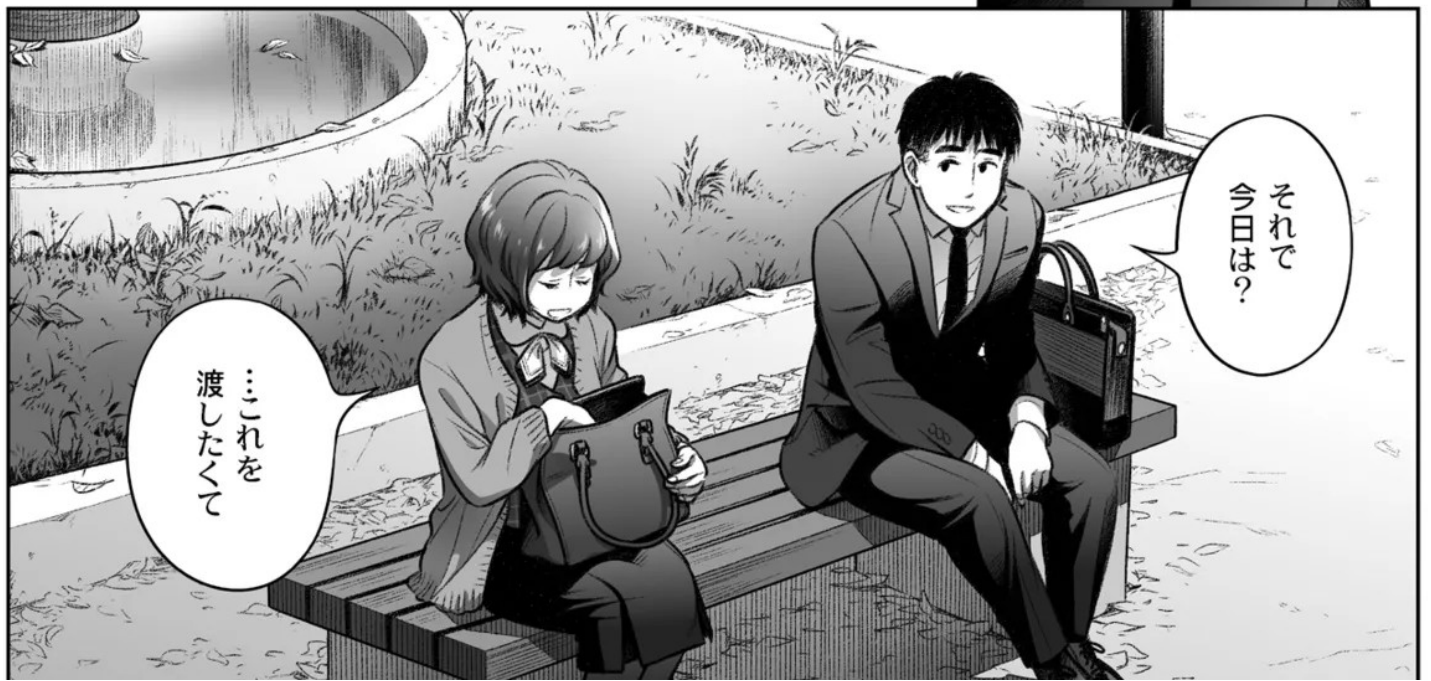




忙しいのに
呼び出して
すみません

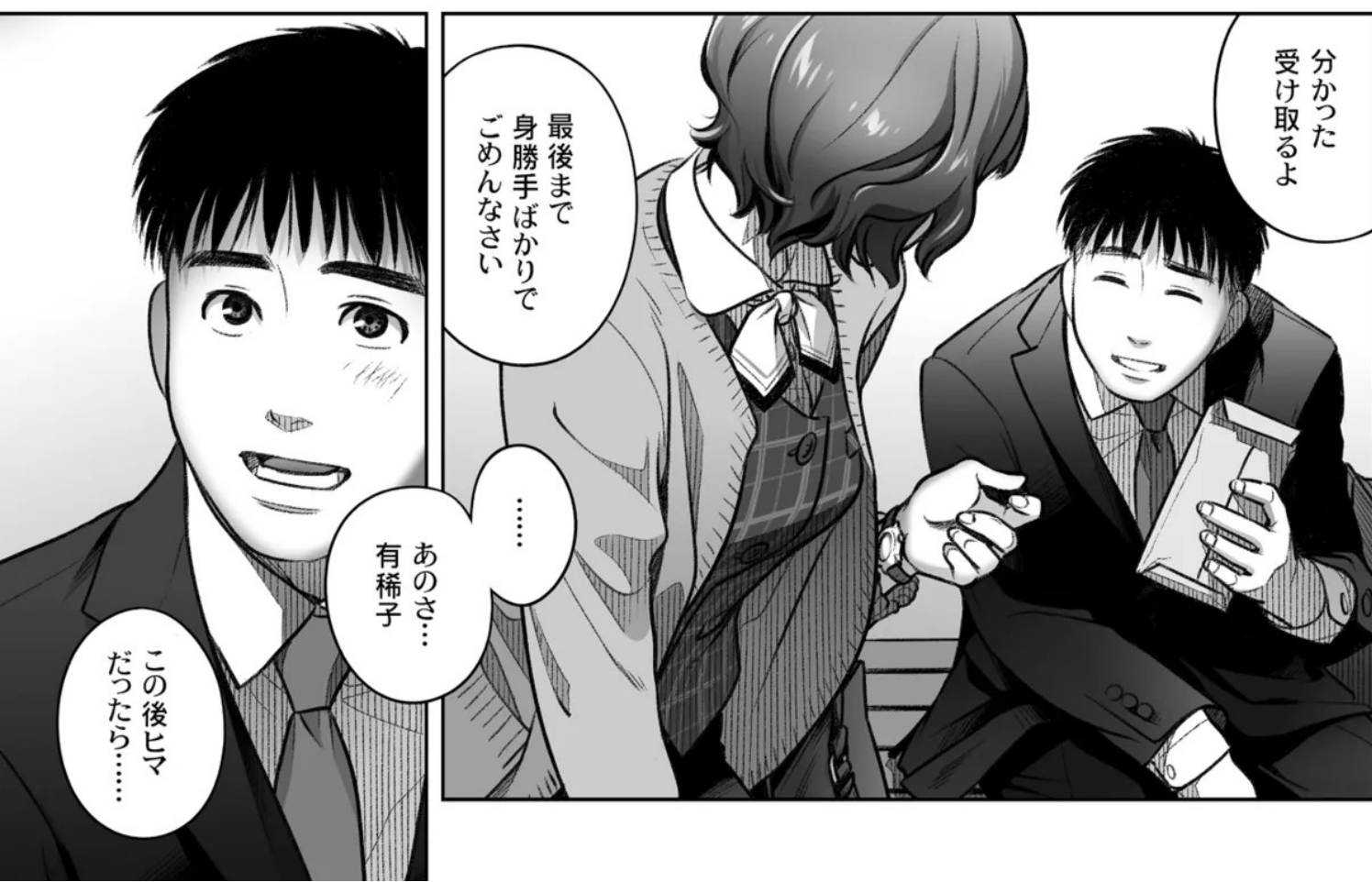
いや…
元氣そうで
安心したよ

はい
あなたも



それで
今日は？

…これを
渡したくて

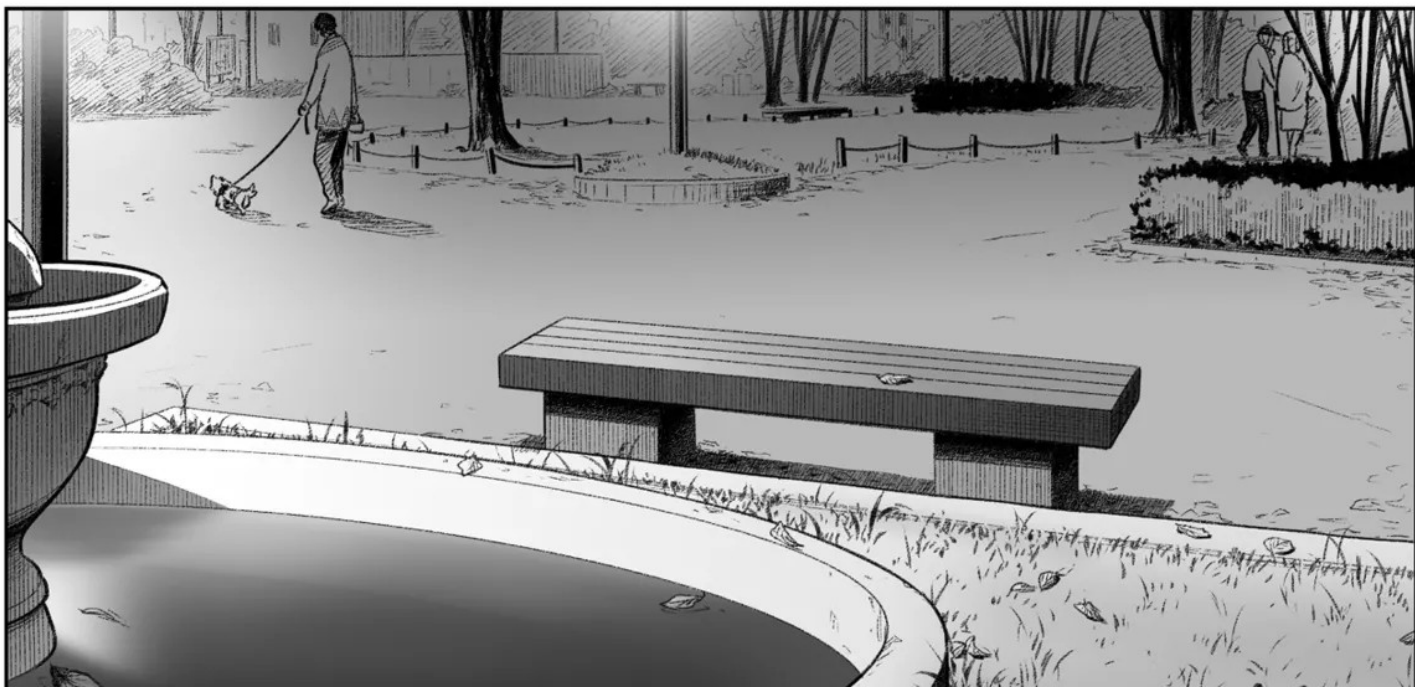




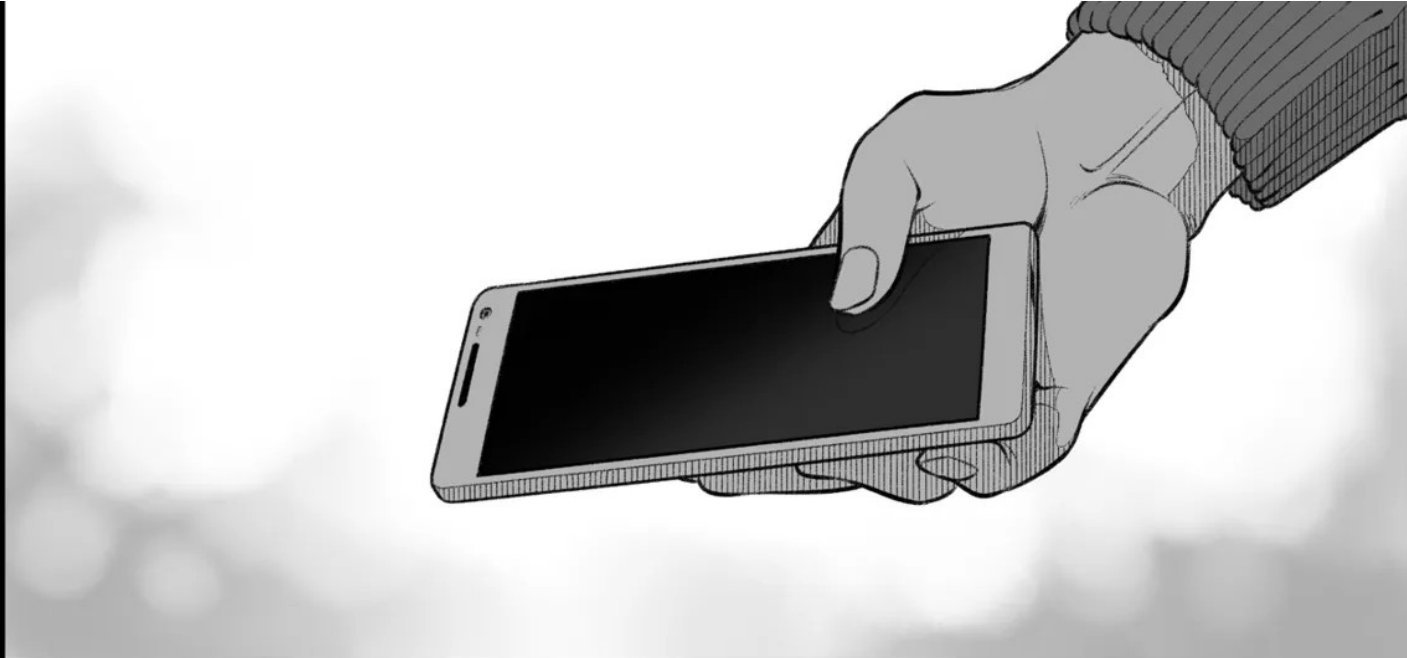


直樹さん
今日は来てくれて
ありがとう

どうか…
お元気で—







倉田有稀子の告白

Confession of Akiko Kurata

終

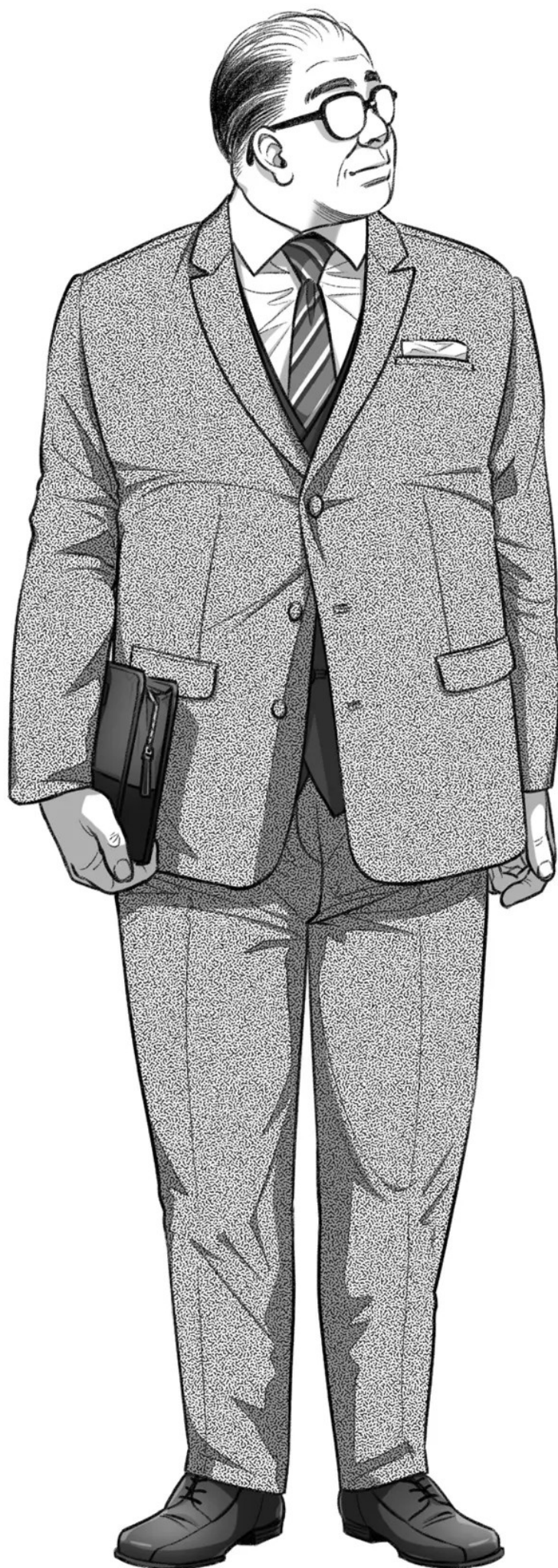
■ 有稀子(事務服) ■

直樹との離婚後に再就職した
会社での仕事着。

離婚後は、以前のマンションを
離れて一人暮らしをしている。

主婦時代よりも痩せたのと
髪型が変わったので、少しだけ
垢抜けた印象に。





■ 小松澤 ■

会社社長を務める初老の紳士。
落ち着いた物腰ながら、自社を
一代で築き上げた立志伝中の人。



当サークルの無断転載について の考えとお願い。

かねてより、ネット上において当サークルの著作物が無断で公開される事例が多発しております。

これは、当方の著作権を侵害するだけでなく貴重な時間と費用を負担してご購入くださっている読み手の方々のご厚意をも傷つける行為であると考えております。

いかなるメディアにおいても、無断転載はお止めください。

倉田有稀子の告白 ③(電子書籍版)

[発行日] 2022/01

[著者] 大塚まひろ(オタクビーム)

HP userweb.117.ne.jp/otakubeam/

Mail otakubeam@hotmail.com

©2022 オタクビーム

Unapproved reproduction is forbidden.